

地域福祉課 所管業務

夜の集い	令和2年9月18日 プレオープン以 降、毎月1回第3 または第4金曜日	まんまるホール	あったかふれあいセンターの「はたらく」機能として、地域と孤立傾向にあり日中外へ出づらさを感じている方にとって新たな社会参加の場となる[夜の集いの場]を開催した。開催にあたっては関係機関である行政障がい担当、相談支援事業所、自立相談支援事業】と連携し、令和2年9月プレオープンの後、10月より月1回定期開催を行なった。
地域ふくし活動推進委員会	令和2年5月28日 14:00～16:00	まんまるホール	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動資金について ・久礼地域アクションプランの進捗状況 ・合同避難訓練について ・小地域ケア会議の予定 ・夏休み わいわいクラブと地域の交流について
	令和2年9月17日 14:00～16:00		<ul style="list-style-type: none"> ・防災運動会について ・ふれあい作品展について ・夜の集いについて ・小地域ケア会議について ・活動同窓会について ・合同避難訓練について
	令和3年2月18日 14:00～16:00		<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい作品展について ・小地域ケア会議の進捗確認 ・地域生活支援整備体制事業からの報告 ・来年度の取り組みについて ・活動同窓会について ・地域福祉活動費について
小地域ケア会議	令和2年6月22日 9:30～11:30	大北地区 まんまるホール	<ul style="list-style-type: none"> ・マップ更新 ・地域の確認
	令和2年6月25日 15:00～17:00	長沢地区 長沢集会所	<ul style="list-style-type: none"> ・マップ更新 ・昨年度の長沢地区認知症サポーター養成講座の振り返りと今後について
	令和2年6月26日 10時～12時	道の川地区 道の川集会所	<ul style="list-style-type: none"> ・マップ更新 ・地域課題の整理
	令和2年7月17日 18時～20時	学校周辺地区 [本場通り・永久町] 永久町上本町集会所	<ul style="list-style-type: none"> ・はたらく機能の説明 ・自主防災の説明 ・マップ更新
	令和2年7月29日 18時～19時30分	城山周辺地区 [神山・伊屋] まんまるホール	<ul style="list-style-type: none"> ・はたらく機能の説明 ・マップ更新 ・地域課題の整理
	令和2年8月7日 10時～11時30分	南新町・駅前新町地区 まんまるホール	<ul style="list-style-type: none"> ・はたらく機能の説明 ・マップ更新 ・地域課題の整理

	令和2年10月1日 14:00～16:00	港町・天神・曙・恵美須 地区 まんまるホール	<ul style="list-style-type: none"> ・あったかふれあいセンター説明 ・マップ作成 ・地域課題の整理
	令和2年10月29日 18:00～20:00	浜西、宮ノ下・八幡西地 区 まんまるホール	<ul style="list-style-type: none"> ・はたらく機能説明 ・マップ更新 ・地域課題の整理
	令和2年11月26日 13:30～15:30	中島裏・浦地区 浦分多目的集会所	<ul style="list-style-type: none"> ・はたらく機能説明 ・マップ更新 ・地域課題の整理
	令和2年11月27日 13:30～15:30	中島・末広地区 浦分多目的集会所	<ul style="list-style-type: none"> ・マップ作成 ・地域課題の整理
	令和3年2月25日 13:30～15:30	住吉・駅前通り地区 浦分多目的集会所	<ul style="list-style-type: none"> ・マップ作成 ・地域課題の整理
スタッフ勉強会	毎月第4金曜日 16時～17時	社協事務局	5月：障害福祉課の事業(つどい処・相談支援事業所・就労B)について 6月：日常生活自立支援事業・生活困窮者自立相談支援事業について 7月：中土佐町権利擁護支援センター事業について 8月：伝達研修と企画立案について 9月：地域福祉について 10月：地域福祉、あったかの役割について 11月：地域福祉実践論 1月：生活課題・地域課題伝達 2月：コロナ禍でもつながりを切らない。地域の支え合いを考える 3月：今後のあったかふれあいセンターについて
まんまる定例会	毎月第3水曜日 9:30～11:30	まんまるホール	個別ケース共有・検討/機能別報告/活動報告
チーム定例会	毎月第2月曜日 9時～11時	社協事務局	各事業担当者の連携による各事業の円滑な推進と進捗管理、協議検討。

<p>上半期評価</p>	<p>1. 社会参加支援 ①まんまるにあっては、引きこもり者等「働く場」の創出が今年度の目標となっているため、新たな取組みとして引きこもり者等の社会参加の第1歩として「夜の集い」を開催することとした。その準備段階にプレオープン企画をし参加者の動向確認を行ったが、残念ながら参加者はなかった。 ②防災運動会を通して、地域活動に参加する住民（ボランティア等の担い手）を増やすことができた。</p> <p>2. 見守りを通した地域活動の推進 従前から小地域ケア会議が開催されていた地区の開催回数は8地区8回、参加者数は総30人であった。また、上半期に新たに開催した地区はなかったが、9月に準備を始め、10月1日に開催することになっている。しかし、すべての会議において、残念ながら若年層の参加者はなく、若者による主体的な地域福祉活動への参加が大きな課題である。</p> <p>3. 早期発見・早期対応 あらゆる地域課題に対する住民の気づきを促すために、例年、「学びの場」を企画しているが、上半期はコロナ禍の影響で企画できなかった。 また、支援課題の発見や専門機関へのつなぎは、まんまるへの「相談」を通して日常的に実践しているが、上半期にあっては、相談受付件数は32件、その相談すべてに対応しているが、必要に応じて地域包括支援センターにつなぐこととしている。</p>
<p>年度評価</p>	<p>1. 社会参加支援 ①「夜の集いの場」を開催した。関係機関【行政障がい担当、相談支援事業所、自立相談支援事業】と連携し令和2年9月にプレオープン、10月以降は月1回定期開催を行なう事が出来た。 ②「夜の集いの場」をツールに関係機関との連携が強まり、対象者へのアプローチにも活用することが出来た。 ③参加者は0名であり、今後も継続して対象者との関係性を作っていく必要がある。 ④社会参加の場の取り組み方法を再検討する必要がある。 ⑤ふれあい作品展、ものづくり体験教室、防災運動会等を開催した。抽出された住民の参加はコロナ禍の影響もあつてか1名であり、まだまだ十分ではない。今後も引き続き個々に応じ参加しやすい場ができるよう支援する必要がある。</p> <p>2. 見守りを通した地域活動の推進 ①小地域ケア会議の継続14地区に加え、民生委員や推進委員、小地域ケア会議出席メンバーの声かけにより新規2地区で計12回実施。53%の進捗状況。小地域ケア会議には50名の参加があり、内14名が新メンバーであり昨年と比較すると参加者が4名増えた。新たな地区へ展開する事で担い手も増えてきており、今後も引き続き小地域ケア会議を通して人材発掘・育成に取り組む必要がある。 ②新たに21件の要支援者が通出されたが、住民が把握しきれていないケースや、気にかかる世帯でも大丈夫と思われているケースがある為、小地域ケア会議を継続しながら見守りの視点が持てるよう取り組む必要がある。 ③地域ふくし活動推進委員会にてアクションプランの推進確認・共有・検討を行っているが、久礼地域は範囲が広く現委員では十分ではない為、小地域ケア会議等を進めながら徐々に新たな委員を増やしていく必要がある。</p> <p>3. 早期発見・早期対応 ①小地域ケア会議等から上がって来た個別ケースを社協相談支援担当と連携、整理し、又、あったかの定例会を活用し行政の専門性を活かして支援の方向性を決める事が出来た。 ②訪問、相談体制がある一定確立し、個別ケースの整理や専門機関へのつなぎ等が適切にでき始めた。訪問・相談・つなぎの視野や視点を広げる為、スタッフのスキルアップ研修を継続する必要がある。 ③支援課題の発見や専門機関へのつなぎは、定期訪問や小地域ケア会議を通じて実施している。今年度の支援課題の発見は1件、つなぎの件数は505件（実人数94人）。つなぎケースは各関係機関につないでおり、今後も継続して取り組む必要がある。 ④防災運動会では、事前打ち合わせ等を活用し、地域ふくし活動推進委員や住民が障がい者等に配慮した取り組みが出来た。 ⑤地域[長沢地区]で認知症の勉強会を行う予定だったが、コロナ禍の影響で中止となり、実施出来なかった。</p>

事業区分	受託事業 (中土佐町)	事業名	あったかふれあい センター事業 (寄り家)	事業内容	地域ふくしの拠点として、子どもから高齢者まで誰もが利用し住民同士で互いに支え合える地域づくりに努めます。特に、地域アクションプランの推進に向けて「地域ふくし活動推進委員」が主体的に取り組めるようサポートし、センターの重点目標を推進委員と共有し「小地域ケア会議」や「地域ふくし活動推進委員会」を起点に取り組みます。										
		担当課	地域福祉課地域支援担当												
今年度の目標	1・【障がい、困窮等への理解促進】 孤立・閉じこもり傾向にある方や課題があり支援が必要な方が、抜け漏れなく抽出されるよう視点を増やす為に住民と職員のスキルアップを図り、抽出された生活課題に対して各関係機関や住民と共有・検討し課題解決につなぐことができる。 2・【社会参加の場づくり】 地域課題等により抽出された方が社会参加できる場を関係機関と協力して開催する事ができる。 3・【若い世代の担い手育成】 若い世代が地域福祉活動に関われるような巻き込みを地域ふくし活動推進委員や作業部会員とともに取り組むことができる。														
実 績 集 計															
項目／月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期計	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	下半期計	年間計
集い利用者数	32	90	193	256	254	152	977	215	401	196	114	126	220	1, 272	2, 249
訪問件数	68	38	75	72	24	55	332	80	94	47	79	64	41	405	737
相談受付件数	5	4	2	3	6	3	23	3	2	6	4	-	4	19	42
要援護者把握数	117	115	111	110	113	111	677	114	117	113	112	113	110	679	1, 356
生活支援件数	33	45	43	55	30	34	240	35	19	41	26	21	34	176	416
取組内容		実施日時		実施場所		具体的な内容									
小地域ケア会議	町浜	6月17日 10：00～12：00		上ノ加江老人憩の家		・MAP更新 ・個別確認 ・高齢者の地域生活課題聞き取り、共有 ・配食サービスについて ・ふれあい訪問について									
		2月3日 10：00～11：30				(コロナ感染症防止の為、中止)									
	笹場・押岡・小草	7月9日 18：30～20：30		笹場小学校		・MAP更新 ・高齢者の地域生活課題聞き取り、共有 ・今年度の取り組みについて (地域アクションプラン確認)									
		11月27日 18：30～20：30		笹場集会所		・MAP更新 ・高齢者の生活課題聞き取り ・地域課題聞き取り ・来年度の方向性確認 (地域アクションプラン確認)									
	大矢井賀	7月1日 14：30～16：30		矢井賀 コミュニティセンター		・MAP更新 ・個別課題、地域課題の確認 ・今年度の取り組みについて (地域アクションプラン確認)									

小地域ケア会議	大矢井賀	12月2日 14:30～	矢井賀 コミュニティーセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・MAP更新 ・高齢者の生活課題聞き取り ・地域課題聞き取り ・来年度の方向性確認（地域アクションプラン確認）
	小矢井賀	7月21日 18:00～20:00	小矢井賀集会所	<ul style="list-style-type: none"> ・MAP更新 ・個別課題、地域課題の確認 ・今年度の取り組みについて（地域アクションプラン確認）
		1月29日 18:00～19:30		（コロナ感染症防止の為、中止）
	山内・大川内	6月26日 18:00～20:00	大川内公会堂	<ul style="list-style-type: none"> ・MAP更新 ・個別課題、地域課題の確認 ・今年度の取り組みについて（地域アクションプラン確認） ・配食サービスについて
		1月27日 18:00～19:30		（コロナ感染症防止の為、中止）
交流事業	季節行事 鯉のぼり等	4月下旬	寄り家	（コロナ感染症防止の為、中止）
	山内・大川内 多世代交流	8月1日 13:00～17:00	農業改善センター	作業部会員、ボランティア（中学生4名・保護者等3名）が主体となり、物づくり教室（竹鉄砲、水鉄砲、竹馬）、出店（駄菓子屋、おもちゃ釣り、的当て、くじ引き、販売）を開催。 ・抽出された住民への誘い掛け
	地域ふくし バザー	11月21日 10:30～13:00	上ノ加江公民館	地域ふくし活動推進委員、作業部会員が中心となり実施。バザー、ゲームコーナー、模擬店、フォト撮影、地域活動の様子等を掲示。 ・抽出された住民への誘い掛け
地域ふくし活動推進委員会		6月5日 10:00～12:00	老人憩いの家	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 地域福祉活動費について報告 ・矢井賀・上ノ加江地域アクションプランについて報告 ・令和2年度 各地域アクションプランの取り組み予定 ・地域ふくしバザーについて検討 ・生活支援体制整備事業今年度の取り組みについて
		10月2日 13:30～15:30	上ノ加江公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・矢井賀・上ノ加江地域アクションプランについて ・地域福祉活動費について ・生活支援体制整備事業今年度の取り組みについて ・地域ふくしバザーについて ・活動同窓会について
		3月1日 10:00～11:30	老人憩いの家	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ふくしバザーについて ・地域福祉活動費について ・矢井賀・上ノ加江地域アクションプランについて ・生活支援体制整備事業より ・活動同窓会について

ふれあい訪問	7月15日 10：30～12：00	町浜地区	・事前学習：おとなりふれあい会について教えてもらい、小学生が地域の取り組みを知る。 ・体験学習：おとなりふれあい会と一緒に高齢者宅に訪問し、小学生が聞きたい事を質問する。
	10月21日 9：00～12：00		・事前学習：高齢になっても地域で安心して暮らしていけるコツや、訪問時のポイントについて。 ・体験学習：役割分担し、おとなりふれあい会と一緒に高齢者宅に訪問し、前回と変わりがないか等様子を見てくる。小学生から地域ふくしバザーの案内をする。
サテライト（小矢井賀）	毎月第3木曜日 13：00～15：00	小矢井賀集会所	担い手と年間スケジュールを立て、ランチや地域行事の準備、地域ふくしバザーに向けての物づくりを実施。防災訓練2回実施。 (4.5.12.1月はコロナ感染症防止の為中止。)
サテライト（大矢井賀）	毎月第1水曜日 12：00～14：30	矢井賀 コミュニティーセンター	担い手と年間スケジュールを立て、レクリエーションやつながる安心カード作成、地域ふくしバザーに向けての物づくりを実施。防災訓練1回実施。防火訓練（コロナの為、担い手のみ参加）1回実施。 (4.5.1.2月はコロナ感染症防止の為中止。)
定例会	毎月第4水曜日 9：00～11：00	寄り家	・個別確認、検討 ・利用状況報告 ・活動報告
チーム定例会	毎月第2月曜日 10：00～12：00	社協事務局	各事業と連携し、進捗管理・協議検討する。
民協定例会	毎月第4月曜日 13：30～15：30	老人憩いの家 公民館	個別共有、つなぎ、イベント周知（声掛け依頼）
スタッフ勉強会	毎月第4金曜日 16：00～17：00	社協事務局	4月：社協職員研修 5月：つどい処・就労継続支援B型事業所について 6月：日常生活自立支援義業・生活困窮事業について 7月：権利擁護支援センター事業について 8月：スタッフ研修伝達、企画書について 9月：地域福祉について 10月：地域福祉・あったかの役割について 11月：地域福祉実践論 1月：生活加地・地域課題伝達 2月：地域の支え合いを考える研修 3月：今後のあったかについて
認知症カフェ	毎月第4木曜日 10：00～12：00	寄り家・公民館 農業改善センター 老人憩の家	・頭の体操・体の体操・高松医師のお話 ・抽出された住民への誘い掛け (4.12.1月コロナ感染症防止の為、中止)

評 価

上半期評価

小地域ケア会議を5地区で実施。住民同士、日頃の生活の様子を知っており日常的に見守りができている一方で、家族と同居していたり、近くに親族がいたりすると情報が上がりにくい。そのため新たに気になる人の抽出は1件にとどまった。下半期では職員が研修会等に参加し、住民の視点を増やす働きかけが出来るよう取り組む必要がある。

今年度、個別シートの課題や役割を整理したことで、課題解決に向けて取り組むことが出来ている。

集う・学び・交流への参加人数（延べ人数）はコロナ禍の影響もあり、集う（-180）・学び（-58）・交流（-35）と昨年と比べ減少している。学び・交流の機能を活用し抽出された住民の誘い掛けを行う機会も減った為、イベントへの誘い掛けだけでなく個々に合わせた社会参加の機会につなげられるよう関係機関と検討する必要がある。また若い世代の参画に関しても、地域ふくし活動推進委員会や作業部会員と役割分担しアプローチを行ったが、勤めや農作業等で参加が難しかった。当日の参加だけに限らず、準備や片付けなど、個々に合わせた活躍が出来るよう検討する必要がある。

年度評価

下半期はコロナ禍の影響で、小地域ケア会議や地域ふくし活動推進委員を対象にした勉強会などが中止になったが、小地域ケア会議以外の場で情報が挙がるケースもふえつつある。しかし、高齢者以外への視点に関してはまだまだ十分でない。地域での見守りの視点を広げ複雑化・多様化する個別課題・地域課題に対して、早期発見・対応ができるよう関係機関と連携し、継続した働きかけを行う必要がある。

食の確保に関する生活課題に対しては、移動販売や配食サービスで補えつつあるが、担い手不足が課題にありまだまだ十分とは言えない。また、地域から挙がっていない服薬や病院受診などの課題を住民と共有し、解決に向けて話し合う必要がある。

抽出された住民や、若い世代など多様な住民が、自分の出来る範囲で地域福祉活動に参加し継続して社会参加できるよう関係機関と協力し、検討する必要がある。

事業区分	受託事業 (中土佐町)	事業名	あったかふれあい センター事業 (ほのぼの大野見)	事業内容	地域ふくしの拠点として、子どもから高齢者まで誰もが利用し住民同士で互いに支え合える地域づくりに努めます。特に、地域アクションプランの推進に向けて「地域ふくし活動推進委員」が主体的に取り組めるようサポートし、センターの重点目標を推進委員と共有し「小地域ケア会議」や「地域ふくし活動推進委員会」を起点に取り組みます。										
		担当課	地域福祉課地域支援担当												
今年度の目標	<p>【小地域ケア会議の充実】 生活状況が把握できなかった中央地区へ新たなメンバーが参加したり、あったかのプログラムの場を活用し現状把握や情報共有ができる。 また、住民から上がってきた情報を職員会や定例会などで共有・検討を行うことで、住民や専門職等の関係機関との役割分担ができる。</p> <p>【訪問・相談・つなぐの強化】 サテライトの場での相談・訪問が行えるよう生活支援コーディネーターや北・南集落活動支援センターの支援員、住民と情報共有し、各関係機関へつなぎ役割分担することができる。</p> <p>【担い手の発掘と育成】 新たな担い手発掘と、新たな担い手1名が参加につながる。</p>														
実 績 集 計															
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年間計
集い利用者数	208	257	565	478	506	372	2,386	487	447	772	380	356	462	2,904	5,290
訪問件数	8	23	17	12	13	15	88	22	13	13	16	15	11	90	178
相談受付件数	1	-	1	9	9	-	20	2	1	10	7	2	1	23	43
要援護者把握数	123	123	120	120	115	113	714	127	128	131	130	129	127	772	1,486
生活支援件数	7	2	3	5	1	7	25	5	8	2	6	3	1	25	50

取組内容	実施日時	実施場所	具体的な内容
地域ふくし活動推進委員会	令和2年6月3日 16:30～18:00	大野見福祉保健センター	地域アクションプランの確認と今年度の地域の取り組み内容の確認を行う。
	令和2年9月3日 16:30～18:00	大野見福祉保健センター	今年度の地域ふくし研修会の開催可否と内容決めを行い開催することに決まる。内容についても推進委員で決める事が出来た。
	令和2年12月 4～6日 10:00～15:00	大野見体育館（吉野）	地域ふくし活動推進委員が文化祭の復活と作品を通して子どもから大人まで一緒に集まれる場にできないか話し合い「大野見みんなの文化展」を開催。作品募集の声掛けや展示、当日受付と片付けまでを住民で役割分担して行った。
小地域ケア会議	令和2年7月3日 18:30～20:00	北地区 北小ホール	作業部会員によるマップ更新と地域課題についての情報共有を行う。つながる安心カードについて消防からのお返しを伝え、更新方法について検討する。年2回行った。
	令和2年7月17日 18:00～19:30	中央地区 (荒瀬・久万秋・橋谷) 大野見福祉保健センター	作業部会員によるマップ更新と地域課題についての情報共有を行う。つながる安心カードについて消防からのお返しを伝え、更新方法について検討する。年2回行った。
	令和2年7月21日 18:00～19:30	中央地区 (槇野々・長野・三ツ又・伊勢川・喜田・奈路) 大野見福祉保健センター	作業部会員によるマップ更新と地域課題についての情報共有を行う。つながる安心カードについて消防からのお返しを伝え、更新方法について検討する。年2回行った。
	令和2年7月31日 18:00～19:30	中央地区 (吉野) 大野見福祉保健センター	作業部会員によるマップ更新と地域課題についての情報共有を行う。つながる安心カードについて消防からのお返しを伝え、更新方法について検討する。年2回行った。
	令和2年8月19日 14:00～15:30	南地区 集落活動支援センター 「みなみ」	作業部会員によるマップ更新と地域課題についての情報共有を行う。つながる安心カードについて消防からのお返しを伝え、更新方法について検討する。年2回行った。

サテライト	毎月第3水曜日 14:00～15:00	南サテライト	今年度より小地域ケア会議を行うことに決まる。年2回行い、次回は12月。 困り事相談の場。（内容に応じて関係機関へつなぐ。） 孤食防止につながるよう調理をしてみんなで食べる事が多い。また、住民の活躍の場として七夕飾り等季節の行事を行う。
	毎月第3金曜日 12:00～14:00	下ル川サテライト	困り事相談の場。（内容に応じて関係機関へつなぐ。） 孤食防止につながるようみんな調理をして食べる事が多い。また、住民の活躍の場として七夕飾り等季節の行事を行う。
	毎月第4金曜日 11:00～14:00	北サテライト	レクリエーションと昼食作りが住民の活躍の場になっている。 孤食防止につながるようみんな昼食を食べる。 ※4.5月はコロナの為未開催。
ほのぼの定例会	毎月第2水曜日 9:30～11:30	ほのぼの大野見事務所	個別検討（行政・社協・ほのぼの）・事業の進捗管理と報告。
大野見定例民協	毎月調整	大野見福祉保健センター	民生委員活動の報告・検討・サポート・協議等。
スタッフ勉強会	毎月第4金曜日 16:00～17:00	社協事務局	各関係機関や住民等と共有や検討がスムーズに行えるように研修に参加し、スタッフのスキルアップを図る。今年度は下記研修へ参加。 R2. 4月：社協職員研修 5月：相談支援事業・地域生活支援事業 6月：生活困窮者自立支援事業・日常生活自立支援事業 7月：権利擁護支援センター事業 8月：あったかふれあいセンタースタッフ研修（下ろし研修） 企画書について 9月：地域福祉とは① 10月：地域福祉とは…中土佐町におけるあったかふれあいセンターの役割とは② 11月：地域福祉実施論 12月：なし R3. 1月：CSW下ろし研修 2月：地域の支え合いを考える研修（ZOOM） 3月：今後のあったかについて
内部・外部研修	適宜	社協事務局	R2. 6月：社協会員制度・赤い羽根共同募金 10月：ファシリテーション研修 ：あったかふれあいセンター関係者研修 R3. 1月：あったかふれあいセンター推進連絡会（ZOOM）

わいわいクラブ音楽交流会	令和2年8月10日 10:00～13:00	大野見青年の家	大野見PTA'Sバンドの演奏や楽器に触れる体験を通して大野見の住民とわいわいクラブの児童の交流ができ、障がい理解について楽しく学ぶ。住民の活躍の場にもなっている。
ほのぼのランチ	毎月第2火曜日 10:30～13:00	ほのぼの大野見	ほのぼのお楽しみ会。介護予防等の学ぶや交流等を行う。住民の活躍の場としてレクリエーションや調理（ボランティア）を行い、孤食を少しでも無くするため参加者みんなで食べる。 ※4.5.8～R3.3月はコロナのため調理中止。
地域支援チーム定例会	毎月第2月曜日 10:00～12:00	社協地域支援課	各事業の進捗管理・連携・協議・検討をする。
職員会	毎週水曜 13:00～15:00	ほのぼの大野見	スタッフ間で各事業の進捗管理・個別検討・協議をする。
認知症カフェ	毎月第1水曜日	大野見福祉保健センター	レクリエーション（ボランティア）・体操・脳トレ等 住民の活躍の場にもなっている。 ※5月はコロナの為未開催
評 価			
上半期評価	<p>小地域ケア会議を3地区（5か所×1回）実施。南地区に関してはサテライトの場で小地域ケア会議を行うことが決まり、また打ち合わせなどの場で情報共有を行うことができた。各地区の現状把握を行うため、北地区振興会、南の明日を考える会の方と情報共有・検討をし、ほのぼのとの役割分担を行いつつある。中央地区に関しては自治組織がない為今後どうしていくかを住民と一緒に考えていく必要がある。</p> <p>サテライトを含む集いの場や訪問、小地域ケア会議等で住民からの相談が14件、つながりが90件あった。</p> <p>個別訪問時や各関係機関、住民とスムーズに相談・つながりを行えるよう、スタッフのスキルアップを図るためにスタッフ勉強会や社協内部・外部研修へ参加したことで、相談内容の整理ができ関係機関や住民とのつながりがスムーズに行えるようになった。下半期も適宜研修へ参加しスキルアップを図っていく。</p> <p>小地域ケア会議やあったかの取り組みに声掛けを行うことができず、新たな担い手の抽出や参加にはつながらなかった。集う・学ぶ・交流での若い世代の参加率は4.5%だった。（R2.8/31現在）</p> <p>認知症理解に向けた学び・交流は行えなかったが、障がい児（わいわいクラブ）と地域の住民との交流は実施できた。コロナ禍の為高齢者の参加は取りやめたが、地域ふくし活動推進委員の声掛けにより、大野見学童保育の子どもと担い手の参加があった。交流の機会を通して推進委員が主体的に地域へ働きかけ実施できた。</p>		

<p>年度評価</p>	<p>小地域ケア会議を5地区各2回開催し、各地区の住民と個別の情報共有・検討・地域課題の抽出を行ったが、住民が関り辛い世帯もあり十分な情報を得られなかった為、関係機関（住民含む）と協力し役割分担をしていく必要がある。またケア会や定例会・職員会等で個別検討をスムーズに行えるよう内部・外部研修へ参加しスキルアップを図った。その後個別検討や訪問時の聞き取りなどの場面で活用できたため今後も研修会等へ参加しスキルアップを図っていく。</p> <p>北地区振興会と南地区の明日を考える会の各自治組織の今年度の活動内容の共有・確認を集落活動センターの支援員等と行い、お互いの役割分担を話し合うことができるようになってきたが、まだまだ住民主体の見守りが十分ではない為今後も継続して連携を図る必要がある。中央地区に関しては自治組織がない事で地域課題について話し合う機会が少ないため、ケア会議を充実させていく必要がある。</p> <p>認知症や障がい理解に向けてカフェやサテ、ランチの場を活用し「学び」「交わる」を行ったが参加者は昨年度と変化がなかった。専門職や住民と検討・情報共有し抽出された方が参加につながるよう内容の検討や声掛けをしていく必要がある。またこれまで認知症カフェやサテライト・ほのぼのランチへ関わってきた担い手が、高齢化によりしんどさの訴えがあるが生きがいにもなっている。今後も継続して行えるよう内容の工夫が必要。また、新たな担い手に関わってもらえるよう継続して声掛けを行っていく。</p> <p>第2期計画中間評価を終え、住民が見えている課題と専門職が見えている課題の違いがあることが分かった。今後、第3期計画策定時に双方の課題が合わさり、地域アクションプランに反映されるよう働きかける必要がある。</p>
-------------	---

事業区分	自主事業	事業名	ボランティアセンター事業	事業内容	「地域共生社会」の実現に向け、あったかふれあいセンターや各事業で明らかになった地域生活課題やニーズに対して人材を確保する。また、災害時の円滑なボランティア活動支援に取り組めるようボランティアセンター機能の強化を図る。
		担当課	地域福祉課地域支援担当		
今年度の目標	①地域生活課題やボランティアニーズに対応できる人材が確保できる。 ②災害ボランティアセンター連絡会を通じて災害時の社協と行政、住民の役割が明確になる。				
取組内容	実施日時	実施場所	具体的な内容		
ボランティアニーズマッチング	随時	本所内 ボランティアセンター	相談件数：7（ボランティアを必要としているニーズ5件、ボランティアをしたいというニーズ2件） マッチング件数：4 つないだボランティア：12名		
第1回災害ボランティアセンター連絡会	令和2年6月25日 17:45～19:30	社協本所 2階大会議室	連絡網・災害ボランティアルールの作成。災害ボランティアセンター活動マニュアルの模擬訓練の実施。 連絡会所属団体は18団体。そのうち、11団体13名が出席。		
ボランティア学習	令和2年7月26日 8：30～9：00	大野見中学校全学年	ボランティア活動やボランティアセンターの紹介。情報誌の周知。		
	令和2年7月28日 10:30～12:00	大野見小学校5・6年	詳細は福祉学習事業へ記載。		
ボランティア情報誌	令和2年7月27日	—	ボランティア活動に関する話題や募集に関すること、団体や事業で取り組んでいること（助成事業、災ボラ）の紹介等を掲載し、ボランティアへの関心や興味を持ち、活動へのきっかけづくりを行った。 発行部数：2,500部 配布数：2,350部（全戸町内回覧便にて）、各小中学校、各地域ふくし活動推進委員会 実績：情報誌を見て活動保険についての問い合わせ…1件。それをきっかけに、5名がボランティア活動保険へ加入。 情報誌の名前募集に関して…応募数35件。		
ボランティア活動保険助成事業	随時	受付：本所内 ボランティアセンター	安心してボランティア活動を実施していただけるよう赤い羽根共同募金事業の助成金を活用し、個人ボランティアの保険料350円を助成する。実績：25件		
ボランティア活動保険加入手続き	随時	受付：本所内 ボランティアセンター	ボランティア個人・団体が安心安全に活動できるための保険加入の受付手続きを行う。 加入団体：8 加入人数：68名		
講座受講費助成事業	随時	受付：本所内 ボランティアセンター	ボランティア登録をされた方に研修やボランティア講座などの参加受講料を助成する。上限は一人一回の受講に限り3,000円まで。実績：0件。		

ボランティア団体支援	随時	—	萬屋利用者の昼食づくりを実施している萬屋昼食ボランティアの活動支援。 双名園喫茶ボランティアの活動支援（コロナの影響で実施中断）。
評 価			
上半期評価	<p>①ボランティア情報誌を発行したことで、ボランティア活動保険や助成について周知ができ、前年度より保険加入数が増えた（27名増）。その為、より多くのボランティアが安心して活動することができている。活動者を増やす取り組みとして、講座受講費助成事業を実施しているが希望者がいない現状があり、十分な周知ができておらず、取り組みを見直す必要もあるが、活動保険助成事業を始めたことで、加入数の増加につながっている。今後も活動者の把握や活動のきっかけづくりとして活動保険助成事業を周知し、活動しやすい環境をつくりボランティア活動のきっかけになるよう取り組む必要がある。</p> <p>ボランティア募集やボランティア団体の紹介をしたことで、活動へのきっかけづくりができ、興味や関心を持った等の声が聞かれた。さらに、前年度よりボランティアニーズが挙がり、ボランティアセンターで集約することで、活動できるボランティアにつなげることができた。（新たにつながったボランティア4名）</p> <p>しかし、ボランティア活動をしたいというニーズには、希望に沿う活動がなかったり、ボランティアの思いと受け手の思いがマッチしなかったりでつなげることができなかった為、活躍の場を広げられるよう多様な分野と連携し、情報を共有しながら取り組む必要がある。</p> <p>また、ボランティアニーズにはつなげられる人材を確保できたが、挙がってきた地域生活課題の解決に向けた人材の確保には至っていない。引き続き情報収集等行い、関係機関と連携し人材確保に取り組む必要がある。</p> <p>学校の取り組みの中で地域コーディネーターが独自にボランティア募集をかけており、若い世代の関わりもあることから、学校とも連携し、学校支援活動にとどまらず幅広く地域の活動へつなげられるよう働きかける必要がある。</p> <p>その他に人材育成として小中学生にボランティア学習を実施したことで、センターの周知ができた。また、学校で取り組んでいるボランティア活動だけでなく、現在町内で活動しているボランティア団体への関心にもつながり、今後自分たちができることを考える際に、清掃活動ゴミ拾いから災害時の支援活動まで幅広い意見が出された。今後もボランティア活動へのきっかけづくり、ボランティア意識の向上を目的に小中学生へのボランティア学習に取り組む必要がある。</p> <p>②災害時のボランティア活動を円滑に行うため、ネットワークの構築を行っている。連絡会を通じて周知も進めており、年々意識が高まってきている。その為、連絡網や災害ボランティアルール、災害ボランティアセンター活動マニュアルの素案が完成した。今後も連絡会を通じて平時からのネットワークの構築を図る必要がある。</p>		
年度評価	<p>課題や地域支援ニーズに対処する人材確保、人材育成はあったかふれあいセンター等それぞれの事業毎に取り組むことは困難である。よって、ボランティアセンターが中心となって、地域づくりに関わる事業と連携し、必要な人材の発掘やマッチング、育成に取り組む必要があると考えている。</p> <p>今年度は、特にマッチング機能の強化に務め、ニーズを把握、集約することで、数少ないボランティア人材が効率的に活動できるようにした。そうすることで、各地域内にとどまらず、町全体でのボランティアマッチングが可能となった。</p>		

事業区分	自主事業	事業名	福祉学習	事業内容	子どもたちの豊かな福祉感の醸成を目指し、学校や関係機関との連携で総合学習時間に当事者や地域住民の参加を得ながら実施している。	
		担当課	地域福祉課 地域支援担当			
今年度目標	学校・関係機関・地域と連携し、小中学校全学年で福祉学習が実施できる。					
実施日時	対象者	参加者数	支援者等 (担当者以外)	内 容 等		
令和2年6月16日 14：00～15：40	久礼小学校 3年生	25	7（教員2）	【高齢理解：事前学習】座学にて高齢者の特徴や心の変化を学び、高齢者疑似体験を用いて実際の体の衰えや感覚の鈍さ生活のしづらさを体験する。		
令和2年7月10日 14：00～15：00	久礼小学校 3年生	25	6（教員1）	【高齢理解：体験学習】デイサービスセンター“のじぎく荘”で事前学習を踏まえた高齢者との交流。小学校からのDVDメッセージや縦笛の演奏プレゼントのほか、一緒に昔遊びを楽しんだ。ミッション形式の高齢者へ質問タイムを取り入れ、よりたくさん的高齢者と会話できるよう組み立てた。		
令和2年6月19日 (1H)	久礼小学校 4年生	36	3（教員2）	【障がい理解：事前学習】座学にて健康福祉課保健師より障がいについて学ぶ。障がい者とはどんな人か、障がいの特性とは等をグループワークを入れながら児童の考えを引き出す。		
令和2年6月24・26日 (2H程度)	久礼小学校 4年生	36	4（教員2）	【障がい理解：体験学習】ストックヤードにて障がい者と一緒に仕事を体験し、交流する。耳の聞こえの悪い人や目の見えづらい人へはどのような配慮が必要か、体験ゴーグルやイヤーマフ、軍手等を付け、実際に近い状態を体験しながら作業を行った。		
令和2年7月1日 10:00～11:30	上ノ加江小学校 5・6年生	12	6（教員3）	【高齢理解：事前学習】座学にて高齢者の特徴や心の変化を学び、高齢者疑似体験を用いて実際の体の衰えや感覚の鈍さ生活のしづらさを体験する。おとなりふれあい会のメンバーから活動についてや高齢者との接し方について学ぶ。		
令和2年7月15日 10：30～12：00	上ノ加江小学校 5・6年生	12	10（教員3）	【高齢理解：体験学習】おとなりふれあい会のメンバーと在宅生活を送っている高齢者宅に訪問し、交流しながら普段の暮らしについて聞く。毎日の生活やつながり、困っていること等を聞き、高齢者の現状を知る。		
令和2年7月28日 10：30～12：00	大野見小学校 5・6年生	12	3（教員2）	【ボランティア学習】地域のボランティア活動や身近な寄付活動である「赤い羽根共同募金」の仕組みについて学ぶ。		

令和2年9月18日 9:00～12:00	久礼小学校 2年生	22	11 (教員3)	【自分たちの町を知る学習】町探検を通して自分たちの町の良さや特徴を学ぶ。笹場地域を探検 (①いちょうの木の説明 ②町営住宅のギャラリー (長山さん宅見学) ③ハウス見学 ④防風林や神社等の説明 ⑤笹場小学校説明 ⑥笹場の防災の取り組み (避難道) クイズ形式で楽しみながら実施。各箇所地域住民が先生役になり、得意分野 (仕事としていること等) を伝える。
令和2年9月30日 11:35～12:20	久礼小学校 5年生	31	15 (教員2)	【障がい理解】ボッチャで交流を図りながら、障がいの特徴を理解し必要なサポートを知る。また、障がいを特別ではなく身近に感じる機会をつくる。障がいや事業所についての説明、当事者2名の体験談を話した後、9班を3つのコートに分け、「見えにくさ」「聞こえにくさ」の疑似体験を加えながら、ボッチャの対戦を行った。終了後は、コート毎に振り返りを行った。
令和2年10月21日 10:00～12:00	上ノ加江小学校 5.6年生	12	10 (教員3)	【高齢理解：体験学習】おとなりふれあい会のメンバーと在宅生活を送っている高齢者宅に訪問し、交流しながら普段の暮らしについて聞く。児童各々が「今日の目標」を設定し、終了後に認定書を授与。
令和2年10月21日 ～10月23日	大野見中学校 3年生	1		【職場体験】学校のカリキュラム。生徒が将来就きたい職種や関心のある業種を希望し、受け入れ。集いの場、サテライト、送迎同行、百歳体操、苗植えなどあったかふれあいセンターの業務を体験し、高齢者への対応や地域福祉の取り組みについて学ぶ場を設けた。
令和2年10月26日 (1H)	大野見小学校 3・4年生	11	1 (教員2)	【障がい理解：事前学習】座学にて健康福祉課保健師より障がいについて学ぶ。障がい者とはどんな人か、障がいの特性とは等をグループワークを入れながら児童の考えを引き出す。
令和2年10月28日 10:40～11:55	大野見小学校 3・4年生	11	4 (教員2)	【障がい理解：体験学習】ストックヤードにて障がい者と一緒に仕事を体験し、交流する。耳の聞こえの悪い人や目の見えづらい人へはどのような配慮が必要か、体験ゴーグルやイヤーマフ、軍手等を付け、実際に近い状態を体験しながら作業を行った。
令和2年12月3日 10:45～12:25	久礼小学校 6年生	27	4 (教員3)	【高齢・認知症理解】子どもたちが高齢者・認知症について学び、身近な生活の中で自らが思いやりのある行動に移すことができるを目的とし、地域には色々な人がいることを知り、体験を通して相手の立場に立った行動を取ることができることを期待する成果とした。
令和2年2月12日	上ノ加江小学校 3.4年生	12	3 (教員2)	【障がい理解：事前学習】座学にて健康福祉課保健師より障がいについて学ぶ。障がい者とはどんな人か、障がいの特性とは等をグループワークを入れながら児童の考えを引き出す。

令和3年2月17日 10:45～11:50	上ノ加江小学校 3.4年生	12	4 (教員2)	【障がい理解：体験学習】ストックヤードにて障がい者と一緒に仕事を体験し、交流する。耳の聞こえの悪い人や目の見えづらい人へはどのような配慮が必要か、体験ゴーグルやイヤーマフ、軍手等を付け、実際に近い状態を体験しながら作業を行った。
令和3年3月4日 14:00～14:45	久礼小学校 1年生	28	7	【昔遊び】昔遊びを通じて児童と地域の高齢者の交流を図る。地域ふくし活動推進委員とまんまる利用者が主となり、けん玉、あや取り、お手玉等の昔遊びを子どもたちが教わり、遊びを通じてコミュニケーションを図る場を設けた。
評 価				
上半期評価	<p>地域の実情や学年の理解度もその年その年で少し違いがあることから、先生方と検討しながら学習内容を組み立てることができている。福祉学習を見直し、児童・生徒の成長に合わせたプロセスや視点を取り入れたプログラムをスタートさせた2年前に比べると、学校側の理解も得られて来ており、スムーズに進めることができている。</p> <p>また、これまで、取り組むことが出来ていなかった学年があったが、小学校の取り入れたい学習とマッチングさせ新たなプログラムを導入することができ、小学校での学習は充実してきた。関係機関との連携により障がい理解や高齢理解の学習は専門的な学びを取り入れ、深めることができている。また、地域の活動者と協働で進めることができ、より多くの住民の関わりがあった。地域が学習の場になることで学校の目指す「学校と地域の連携・協働」が実現できている。</p> <p>しかし、中学校においては、今年度はコロナの影響で実施予定であった学習が中止になり、カリキュラムの過密さから延期が困難であった。このことから、目標の全学年での学習実施には至っていないが、ボランティアセンター事業の中でボランティアへの関心が高まるよう情報誌を活用し、周知を実施したところ、全中学校から反響が寄せられた。</p> <p>次世代の担い手を育成するためにも中学生への福祉学習が重要になることから、今後も中学校への働きかけるとともにボランティアセンター機能を活用し、自ら行動の移すことが出来る人材育成に取り組む必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度までに取り組めていなかった学年…久礼小学校5年⇒障がい理解 (見えづらい障害についてとボッチャを通した障がい者との交流) 久礼小学校6年⇒高齢理解：12月以降に実施予定 (高齢者を理解し、自分たちでできること、これからのまちづくりを考える) 久礼中学校 上ノ加江中学校 } 2学年に認知症サポーター養成講座実施統一 大野見中学校 } その他の学年では段階に応じた学習の実施ができなかった。 			

<p>年度評価</p>	<p>学校へ向けての学習は、コロナ禍で高齢者入居施設を運営する他法人の参画が難しく、事前資料準備への協力に留まり他法人との協働の学習は思うように実施できなかったが、社協内部他部門との協働による学習は連携を強め、新たな分野の学習（ボランティア・共同募金）も取り入れることができた。</p> <p>学校への事前打ち合わせ等アプローチを重ね、学校のカリキュラムと児童の成長に合わせた福祉学習が実施できた。福祉学習を導入できていなかった久礼小1.5.6年生に実施できたため、今後も継続した実施に向けて働きかける必要がある。</p> <p>先生方の理解・協力が得られ始めたが、校長・担任の離任により、毎年アプローチが再スタートになることから、継続した学習につなげるために苦慮している。教育委員会とも連携し、教育現場の理解が得られるよう働きかける必要がある。</p> <p>中学校全校で災害ボランティアセンター模擬訓練を実施し、要配慮者への支援活動を通じた福祉学習を計画していたが、コロナ禍で計画通り実施することができず、授業として生徒全員に向けてボランティア活動へのきっかけを作ることはできなかった。しかし、長期休暇を利用しボランティア活動へ参加していた生徒もいたことから、学校での学習が役立つよう様々な要配慮者についての福祉学習を取り入れ、地域で活躍できる人材を育成する必要がある。</p>
-------------	---